

発表するHUSA
プログラムの留学生
される「食糧フエマニバル」での国際交流実践プロジェクトについて
の中間報告を行い、先駆けとしてフエマニを提示した。今年度は日本
人学生も含む多くの学生の積極的な参加がみられ、今後の展開が期待
される。

広島大学短期交換留学プログラムHUSAの留学生53人(北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジア出身)が、このほど東広島キャンパスの学生クラブでグローバル・リダイビング・プロジェクト、大学と地域の協働(留学生の自助支援:適応と再適応)実践研究グループプロジェクト第1回中間発表会をこのほど開催した。

17カ国41大学からの交換留学生53人で構成する8グループがHUSA担当の恒松直美発着国際専攻教育専任教授による英語と日本語の司会・進行のもと実践プロジェクトの進行状況について発表した。現在、留学生の自助支援プロジェクトの一環として大学における適応支援と再適応支援の研究グループプロジェクトを組んでいる。

発表会は、地域公開として開催され、学内の教員・大学院生・留学生・日本学生・地域行政関係者からも貴重なフィードバックが行われ、大学と地域の協働についても多くの示唆を得ることができた。

国際セミナーで留学する学生

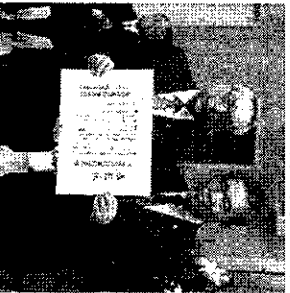


広島大短期交換留学プログラム グローバル・リダイビング事業発表会を開催

「広島大学大学院教育学研究科は、民衆教育の父と称えられるヨハン・ハイリヒ・スタロツチの精神に通じた優れた教育実践者(団体)を顕彰する「第27回スタロツチ教育賞」の表彰式と記念講演を行った。

表彰式には内外から約100人が出席。実行委員長の越智光夫広島大校長と小山正孝大学院教育学研究科長の挨拶・受賞者紹介、小田宏史もみじ銀行頭取からの祝辞後、越智学長が表彰状、ベストマッチ胸像と副賞を和田晋氏(広島市教育委員会主事・広島市立二葉中学校前校長)と桑原教授氏(児童養護施設舞鶴学園理事長)に手渡した。また、岡谷誠則中国新聞社代表取締役社長からは記念品として、賞牌が贈呈された。

記念講演では、和田氏は長年の夜回り活動や二葉中学校での取り組みから大人の存在の重要性を強調し、桑原氏は家庭的な環境の中で自立的管理を地道に続ける取り組みを語り、「教育と福祉」の接点における子どもへの関わり方の話に出席者らは熱心に聞き入った。



和原氏(写真右)と和田氏(同左)に表彰状を贈呈する越智学長